

茅ヶ崎市津波ハザードマップ（素案）：説明会及び意見交換会概要

茅ヶ崎市では、東日本大震災の影響を踏まえ、早急に津波ハザードマップの見直しを行うため、平成24年3月30日に神奈川県より示された津波浸水予測図を基に、新たな津波ハザードマップを作成いたしました。

作成にあたっては茅ヶ崎市津波ハザードマップ（素案）ハンドブック（素案）を示し、全4回の市民説明会を実施いたしました。本説明会での意見交換のほか、当日配布したアンケートなど、多くの皆様からご意見をいただき、津波ハザードマップ及びハンドブックにおいて標高凡例の色表示を変更するなど、可能な限り皆様からのご意見を反映し作成することができました。

説明会へのご参加、アンケートへのご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。
※この説明会及び意見交換会概要は、説明会におけるご意見の概要を示すもので、個人や発言者の地域が特定されるような内容や、表現方法等について一部修正し記載しております。

	日 時	場 所	参加者数
1	平成24年5月14日(月) 18:30～20:30	市役所分庁舎6階コミュニティホール	149人
2	平成24年5月19日(土) 18:30～20:30	茅ヶ崎市商工会議所4階大会議室	56人
3	平成24年5月21日(月) 10:00～12:00	市役所分庁舎6階コミュニティホール	235人
4	平成24年5月27日(日) 14:00～16:00	市役所分庁舎6階コミュニティホール	130人

【1】平成24年5月14日(月)	
意 見	0514-1
① 従来の津波ハザードマップは茅ヶ崎市地図の1／4下（南側）だけであり、全体像を出したことは進歩である。	これがスタートで、これを持ち帰って家族で話し合い、地域で意見交換をするという考え方はその通りである。しかし、ここに10m以上と書いて識別しているが、湘南バイパスの北の部分、赤羽根山の方は関東ローム層の30～40mある台地であり、そのような部分が北部にあるというイメージがこの図からでは頭に入ってこない。
② 地図から見て、茅ヶ崎の地形が頭に入ってこない。	国道1号に見られるように、東が高くて西に行くに従い低くなっていることのイメージが湧かないで何とかならないか。識別で改善できないか。
③ 津波は海底の地形に影響を受ける。茅ヶ崎でいえば相模湾の海底谷、江ノ島沖の海底谷の影響で、鎌倉に到達する津波は高くなるなど、海底の地形からこういう結果になったと思うが、茅ヶ崎海岸の沿岸付近の海底地形を表示できないか。	航空写真で茅ヶ崎全体の様相をつかめという話、狙いとしてはいいと思うが、茅ヶ崎は赤羽根山から見ると平らに見えるが、仙台平野とは違う。砂丘の列や砂丘間低地があり、相模川はあちこち蛇行し、旧河道が存在する。過去の関東大震災等でも、旧河道に沿って、地域的に液状化現象が起こっていることが明らかである。その辺のことを家族で話し合うのは、航空写真ではないのではないか。地形図をきちんと整理して、市民がその図面を見て考えるというものを作りたい。

航空写真は家屋が密集していることは分かるが、その下がどういうものか、砂丘間低地なのか、昔の湿地帯なのか、過去の河道なのか全く分からぬ。津波も怖いが液状化も当然起こるだろう。自分が住んでいる土地がどのような土地か想像できる図面を付けてもらった方が、市民が考えることができるのでないか。

必ずしも元の図面を全部変えろと言うのではなく、ハザードマップで改善するところはして、せっかくハンドブックをつけたのだからこちらで直せるものは直してもらいたい。

平塚市博物館が平塚市周辺の地盤図を出しておる、柳島付近の図面も含まれてゐる。平塚の地形を見ると、砂丘間低地が一目瞭然であり、柳島付近に関しては相模川が蛇行していた様子も分かるし、河道ではないが以前の地震でこの周辺に液状化が起きたこともわかる。ハザードマップにそのまま載せることはきついかもしれないが、ハンドブックでどうにかならないだろうか。

回答	貴重なご意見をいただきたが、どのような形でできるか、すぐに回答はできないが、今後検討させていただきたい。
----	--

意 見	0514-2(1)
	3.11 以降、地域の保育園児と合同で、津波避難訓練を実施している。また、周辺の自治会等と連携を取り、昨年は1300人以上の参加で共同訓練を実施した。
	3.11 以降、避難訓練の必要性が叫ばれているが、茅ヶ崎市では具体的に、他の団体、自治会等で行っている避難訓練の把握、もしくは避難訓練をするようにとの指導・指示はしているのか。

回答	自主的に訓練を実施していただけるのは本当にありがたい。市として全部の自治会の訓練を把握しているわけではないが、(自治会連合会主催の)防災訓練については茅ヶ崎市内12地区から計画をいただき、こちらでもお手伝いをして、進めている。自主的に行っている自治会もあると聞いており、実施状況について情報をいただいているところもあるが集約する形は取っていない。 地震・津波はいつどこで起こるかわかりません。市では、自治会・自主防災組織の中で防災リーダー等がかなり活発に活躍いただいていることを承知している。市としても、防災リーダー育成のための研修を行うので、これを受講して活躍していただけるように、地域の方のご理解を得ながらさらに皆様にお願いしたい。
----	---

意 見	0514-2(2)
	柳島・松尾・浜見平あたりは柳島で8mの津波が到達する場合は越えるという話ですね。今まで津波は国道を越えないと言っていたが、今回は国道を越えるという。越えた場合、浸水域に書かれている以上は行かないだろうという話しだが、行く場合もあるといい、少々あいまいである。 相模川から横に来る、特にゴルフ場から来る津波が大きい波になるのではないかと考えているので、この周辺の津波対策がどうなっているかお伺いしたい。
	津波が来るから逃げましょうと言うが、134号線を越えないような津波対策をお持ちなのか。もしくは、相模川の茅ヶ崎側、特にゴルフ場が低くなっているので、防波堤を作る計画はあるか。逃げろというだけでなく、来た場合でも越えないという、基本的な問題をお考えいただきたい。

津波が 134 号を越えないためのハード的な対策ということだと思うが、今現在、例えば 134 号線を嵩上げするといったような対策はとられていない。これは国の考えも確認したが、津波の場合は、ある程度ハード対策ができる部分と、皆様に避難していただく意識を持っていただく部分との両立が、身を守るための一番現実的な方法と考えている。

相模川の横から来る波についての心配はもっともある。相模川の茅ヶ崎側では高い堤防を寒川側から南に向けて作っており、整備の進み具合は 56% である。国道 1 号から寒川側では、平成 28 年度完成に向けて用地買収を行っている。ご心配の南側、134 号から国道 1 号の間については、いつまでという計画は示されていない。ハザードマップ完成を受けて、国に引き継ぎ要望を出していく。

意 見 0514-2 (3)

3.11 の時には一晩中津波が来ると言っていた。寝ないで回って放送し、3 階以上に逃げなさいとした。

地区は周辺の高校に避難していたが、多くの住民は 3 階以上に逃げなかった。具体性がなくて長い時間。ある程度のところで来ないという判断をどこでしたのだろうか。一晩中言っている必要があったか、疑問である。

回答

津波警報は気象庁の情報を受けて流すということになっており、市町村が判断することはできない。

3.11 の時、J-ALERT については総務省からの情報を市の手を介さずに流れるが、海岸地域に多くの方が集まって津波を見に行ったということがあったため、聞こえない事は承知の上で、「津波が来襲するといけないので近寄らないで下さい」という放送を、度々、夜中にもかかわらず、手動で流した。聞こえないという意見もあったが、外にいる方、海岸付近にいる方には聞こえているという情報があるので、緊急性という事でご理解いただきたい。

意 見 0514-2 (4)

防災無線は何を言っているか分からぬ。

回答

防災無線が聞きづらいという点については、増設や（スピーカーの）向きを変えるなどの補完を行う。

同時に、ハンドブックに情報収集の方法として入れてるので、防災無線が聞こえない場合には、メール配信サービス、電気が使える場合は TV、テレドーム等を使い分けていただきたい。津波の場合は、通常の放送よりも非常に強い放送が流れることになっているので、家の中で聞こえないという事が少なくなるし、サイレンが鳴る。窓を開けて聞こえなかつたら、メール、テレドームなどの方法も取り入れながらお願ひしたい。

また、各地域において、防災ラジオを配布したら役立つのではないかということで、現在発注中である。実際に、使用方法や有効に使えるのか検証して、その結果を受けて、皆様にお話ししたい。

意 見 0514-2 (5)

(津波ハンドブック 5 ページ) 津波一時退避場所 43 番の「コンフォール茅ヶ崎浜見平団地」は 5 階とあるが、正しくは 8 階である。細かいところであるが、各場所を必死に見ていくのか疑問に

感じる。

回答

しっかりと確認し、最終版では正しい情報を載せさせていただく。その他についても、誤りがあれば、アンケート裏面に記載いただくか、後日市役所に電話で結構なので、お知らせいただきたい。

意 見 0514-3 (1)

青いエリアの中に1年前にできた汐見台小学校があり、その上の方にある松浪小学校や緑が浜小学校の生徒達、600人位が汐見台小学校に来ている。この絵から行くと、必ず津波が来る可能性が高い地域にできた小学校であるが、他の小学校、茅ヶ崎小学校を始め、西浜小学校、浜須賀小学校等は青い色でないところに一応ある。

汐見台小学校に1年前に赴任された校長先生は、今PTAと相談し、もとの学校に戻すか、小学校をもっと安全な場所に作りなおして欲しいという事を申し上げているという話を聞いている。

こんな危ないところに、小学校1年生は6~7才、6年生で10才くらい、これらの子供達が600人もいるということについて、対策課として、教育委員会等、また市長に対して意見の申し立てをするのか。

こんなに危ないところにあるという事を、ここにお集まりの皆さんにご認知していただきたい。PTAの皆さんのが心配しているが、この近くには高齢者の介護施設もあるのでよろしくお願ひします。

回答

汐見台小学校周辺は最大2m位の浸水域である。浸水域については各学校の校長先生始め防災担当の方にお集まりいただき、説明をした。学校の建物は、津波に対して（規模等にもよるが）鉄骨鉄筋コンクリートで高い建物は避難場所としての機能を有すると考えている。鉄骨鉄筋コンクリートの建物で2mの浸水域であれば、子供がいる場合には、3階以上に子供を上げて守るというように、先生方が対応すると聞いている。1000年に一度という頻度の少ない津波であるが、このような予測がされている以上、その準備に備えるということで、学校も対応すると伺っている。

意 見 0514-3 (2)

伊勢湾台風の時は、自然災害である地震と同じ台風が来たときに、海から約850m離れた平和学園まで高潮が来て、海側にあった県営住宅の方々が平和学園まで逃げてきた。それと同じような地震じゃなくとも自然災害の台風が来たときには、小学校はこの絵の通り海に沈みます。

あなたのいう3階は、湘南道路よりも低いところにありますので、3階にたとえ逃げても、600人の生徒もろともあの世に行ってしまう危険性があることは事実です。あなたは事実として、あの3階のプールを見たことがありますか。そして、あなたはそのプールの中に水を入れて台風が来て水がここに来たときの事実を確かめた担当官ですか。子供達の命を守ることが私たち市民の役目です。

回答

子供達の命を守ることは私たちの義務です。汐見台小学校のプールはまだ見たことがないので、これから順次回りながら見ていく。

台風・大雨のような自然災害については、事前に何日か前から予測できるものである。何日か前

から情報を随時入れながら、必要に応じて災害対策本部を立ち上げる。授業の子供達に危険が及ばないような体制を、学校側や保護者と連携して取るという事で進めていく。そのように考えているので、ご理解いただきたい。

意 見	0514-4 (1)
立場上、平塚市と東海大学の津波シミュレーションをご覧になったことがあると思う。 茅ヶ崎市の地形を見ると西浜中から東側はかなり低い分布であると思うが、あの映像で平塚駅の南口のロータリーまで行っているのを見ると、その想定の違いがどこから出てくるのか理解に苦しむ。	
回答	
	平塚市のシミュレーションは拝見している。あれは津波が上がって、引くまでの時間がある程度一定時間とどめておいて、流量が中にざざっと入るように、いわゆる「こういう危険がある」という事を映像で示すためのものです。
今回の浸水深は予測に基づいた分布であり、予測で上がる水位は8mまで来るのが2~3分で、一回ひくわけです。だから中まで入り込みます、あの計算結果になっている。私自身が計算しているわけではないが、神奈川県が示した計算結果でそうなっています。	
意 見	0514-4 (2)
介護施設、老人ホーム、特養とか色々あるが、場所によっては一時避難場所に入っているが、ないところも多いと思われる。避難の時の地域の助け合いのためにも明記した方がよいと思う。	
回答	
ご意見として伺っておきます。	

意 見	0514-5 (1)
新聞報道では最大級の8m、10mというのが目と耳から入っていたので、この結果を見て、ほつとしたような、拍子抜けしたような気持ちである。	
一転、個人的感情じゃなくて、8m位が2~3分というのは、イメージからすると津波というのは、ずっときて流れしていくわけですね。西側相模川河口部から遡上した場合、標高4m未満のところは8m級の津波が来るとかなり入ってくると予想できる。算術的にもどうも納得できない。難しい話はともかく、イメージ的にああそうなのかというところを解説していただかないと、地域に入っても同じレベル同士でああでもない、こうでもないと進展しないので、お願いします。	
回答	
先ほどの8mのポイントは中海岸というところです。県から出ている到達津波高さのポイントは、茅ヶ崎漁港、中海岸の所で8m。相模川に入ると減衰してしまうので8mは出ない。具体的なデータはいただいているので分からぬが、浸水予測の結果から見ても相模川の中では8mという高さは出でていない。	
場所毎に、津波の到達高さは沖の地形にも関係しており、中海岸と茅ヶ崎漁港の所の地形では前面で8mと出していたが、背後の地形がこうした形になっているので止まっていく。ただし、東側のエリアでは背後の地形が低いので入る。速度は自動車の速度位なので、時速数十キロで入ることは	

に入るが、入る時間が2~3分の中ではそう拡散しないと理解している。	
意 見	0514-5 (2)
どこで何m位ですか？	
回答	
県から提供いただいた津波到達高は、柳島、茅ヶ崎漁港、中海岸の3箇所のみであり、14頁に載せている。	
意 見	0514-5 (3)：他の質問者
今の方の質問というのは、相模川に津波が遡上してきた場合、何mかということですね。(確認)だから、中島、新田のあたりで何mになるのか。	
回答	
相模川の中には8mは入っていない。県作成のデータを受領して作成しているので、相模川の中でどのような値になっているかは把握していない。県にその情報があれば教えていただけると思う。	
回答	
こちらのデータは「津波浸水想定検討部会」というところで、津波学者、地震学者等々専門の方々が、色々な地震を想定して行いました。	
14頁の津波が何回も来ているというところを見ていただくとわかりやすいが、津波は深ければ深いほど速い、浅くなると遅くなる。先ほど海の図面を出して欲しいというのがありましたが、津波が前の波に追いついてくる現象が起きるのが、浅水効果というもの。津波が高くなる要素が4つあり、集中効果、浅水効果、レンズ効果、共鳴効果ということがある。	
茅ヶ崎は崖地となっているので、速く波が来る、次の波が前の波に追いつかないというところで、このような心臓の鼓動のような形でぼこぼこ来ています。従いまして、高くならないうちに川の中に入って遡上していく、それが何度も繰り返すために、心臓の鼓動のような形で川の方に遡上していく、または沿岸部に到達するということでご理解いただきたい。	

意 見	0514-6
① 短め短めというとみんな発言できなくなる。こんな重要なことなのに、延長とか考えて欲しい。ハザードマップに反映出来る質問と言われたら、私がこれからいう事は言えなくなってしまう。発言を制限したり、躊躇させたりする司会はやめて欲しい。	
② 説明会を4回実施して総括する、その方法がわからない。前回のハザードマップを市では活かすという話があったがそれはどうなのか。前回はモニターを作って何回もやって同じ人が総括をした。今回は違うが、総括と進め方をどうやるのか。	
前回、それだけやったものをそのまま焼き写していると思うが、今回もこれだけやって意見聞いても、そのデータを元にやるというのなら、説明会はいらないのではないか。総括をどうするのかということですよ。	
③ その前に、不安と安心の話と両方、この地図を見ると、安心になると、不安になると。新聞見ると鎌倉は八幡様まで行く、平塚は市役所まで来るかもしれない、藤沢は低いからかもしれないけれど、避難塔を作る場所があるという。茅ヶ崎はその間でこんなに安心なのですか。	

- ④ 防災無線は役に立たないような話をするのをやめてください。5分で逃げろっていう時に電話ができるのか。そのような時は停電も起きるしテレビを見られるのか。そういう時の為の防災無線。何のための防災無線なのか。
- ⑤ 最初の質問の人の話にあったけど、液状化だけじゃなく、茅ヶ崎は火事も起きる。広域避難場所は海に向かって逃げろっていう場所。液状化も起きる。どこに逃げればいいのか。この地図をみて安心するのと不安になると。汐見台だけではない。東海岸小学校・中学校も、学校に通っている人は不安に思っている。その地域の人はそこに向かって逃げる。
- ⑥ 回りに避難場所がない地域もある。ご自分で探せという、避難場所ならある程度安心、でも安心しちゃいけないっていうから、また不安。どう考えればいいのか。どこへどうやって逃げればいいのか。自分で探せっていっても、10m以上の標高の人は大丈夫だとか、なんか言つてもらわないと、どこへ逃げたらいいのか。簡単に言つたら、逃げ場所はない。
- ⑦ 市の総合防災訓練の地域に入っていないくて困っている自治会もある。
- ⑧ もっと慎重に考えて欲しいのは、去年の津波防災訓練の時に、いくら事情があるとしても、クリーンキャンペーンと津波訓練と一緒にやることはないだろう。自治会の人は朝から晩までやりますか。そんなイメージに考えているのか。それで、行った住民の人が何をやっていいか分からないって聞いている。聞いた人は私も含めて運動会をやっているようだった。評価している話も聞いています。でも海岸ではバーベキューをやっているのを市の職員も知っているはず。海に入っている人も。参加した人は、そういうなかでこういう会議したってもう少し、色々始めの所から考えて欲しいと思う。
- ⑨ 「会議の進め方」、「前回と今回のこと」、もっと言うなら「安心と不安」のこと。簡単に言えば、5分で津波が来る、その都度、運動会のように逃げ出してどこへ逃げるのか。浜見平も総括する必要がある。そのうちに逃げられなくなってしまうと言っている。現実的にそんなに動けるか。現実的にリアル的に市に考えて欲しい。こういう会議を重ねるのを待つとか、「総括をどう考えるのか」、「前回と今回をどういうふうにやるのか」、そういうことも含めて、もう少し抜本的に考えて欲しいと思います。安心するって言う面もあるけど、不安ばかりです。どこにどうやって逃げるのかわからない。聞けば聞くほど不安含みでどうやっていいのか分からなくなる。
- ⑩ 関東大震災の時だって、前回のモニターの時は汐見台に船が上がったといっているものもある。関東大震災のときは来なかったとしても、地形だってずいぶん侵食されている。映画をやったときだって、撮影したときは、中海岸だってもう少し高かった。そういうこと言うともっともっと長くなって、短くしろ短くしろって言うからやめときますけど、何しろ不安です。「会議の進め方」そのことからももう少し考えて欲しい。
- ⑪ 最後にもう一言、今日のこの会議があることを知らなかった。何故来たかっていうと、ある市会議員が今日あるよというから来た。口コミでないと分からない。こんな重要なことを。これも進め方のひとつ。もっとPRして欲しい。これだけの人、関心があるからこれだけ来た。地域のコミュニティの会議をやったって、福祉・教育・環境、全部やったって、津波の話ばかり。それだけの関心事なのに、時間短く短くってなんなんですか。その辺から考えて欲しいと思います。以上で終わりにします。

意見	0514-7
	全戸にいつ頃配布する予定か。それだけ教えて下さい。
回答	
	5月中に意見をいただき、6月中に完成させる。完成後、7月中に配布したい。6月中には印刷前であるが、ホームページに発表させていただきたい。

説明会後の意見	0514-8
①	相模川沿いから浸水しているのだから、標高4mの地域にもっと広がるのではないか？マップに護岸の高さを記入してほしい。
②	津波到達高と浸水深（遡上高さ）がわかりにくく、言葉の定義をしっかりととして欲しい。
③	1000年に一度の規模なら、もっと浸水域を広げて良いのではないか？
④	避難訓練のタイムテーブルがない。地区ごとに訓練を実施して大丈夫としているが、実際には1本の道路に複数の地区からの避難者が集中して、混雑が生じるはずである。全体で一斉に行う訓練が必要ではないか。
⑤	停電が発生すればマンションのエレベータは動かなくなる。また、マンションにはオートロックがあるし、マンションの階段は2人が通るのがやつとなほど狭い。年寄りは5分で270mなんて歩けない。マンションに逃げろと言うが、地上から安全域と言われる3階まで移動するには時間がかかる。そのあたりも考慮して、避難までのタイムテーブルを示して欲しい。
⑥	まずは素案として出してくれたことを評価する。
⑦	ハンドブック5~6頁の避難所の更新について、お金は若干かかるが、貼り付けシールを配布してはどうだろうか。
⑧	最後の頁の「我が家の防災メモ」は切り込みを入れて、切り取ってパスケースなどに入れて持ち歩けるようにしてはどうか。コピーは普通の人が取れるわけではない。

【2】平成24年5月19日(土)	
意 見	0519-1(1)
<p>自主防災会としてこの件に非常に関心を持っていて、評価をしている。</p> <p>今回の説明に関しては、私なりの評価としては70点ぐらいと思っている。</p> <p>2つほど提案がある。</p> <p>① 今回のハザードマップの目的は何か？住民が今回のハザードマップを見て一時退避場所へ行く際に、素案のハザードマップでは○印をしてあるだけで、だめ。マップ1枚の中に避難場所の名称を入れてほしい。</p> <p>② 住んでいるところの近くに避難するため、市の西部と東部に細分化した地図1枚の中に名称を入れた形にしてほしい。防災会の地域だけだが、一時退避場所として、地図と場所名と一緒にして、近々に2000世帯に配布しようと考えている。</p>	
回答	
<p>目的は、周囲の住民に対して津波の情報を提供することを目的としている。</p> <p>意見交換会で出た意見を集約してどのように反映させていくか検討していく。</p> <p>地図の見やすさや使いやすさ等、頂いた意見をふまえて、新しい素案を6月中には作成し、7月中旬には配布することで進めている。</p> <p>提案して頂いた事項については、合わせて回答を公表する。</p>	
意 見	0519-1(2)
<p>退避場所として、鉄砲通りから上は必要なのか？</p> <p>鉄砲通りからかなり上の北口や駅のそばなど、可能性がないと思われる場所のマンション等でも一時退避場所として契約が結ばれているが本当に必要なのか？</p> <p>数だけ揃えればいいような感じにも思える。</p> <p>一時退避場所として本当に必要ならば、必要な場所に全部指定してほしい。</p> <p>北口の方など誰も行かないのでは？</p>	
回答	
<p>数だけ揃えているわけではない。</p> <p>津波一時退避場所を協定するにあたって、市から退避場所としてお願いをする場合と、自治会側から退避場所を提供したいとして話を受ける場合がある。鉄砲通りより北については、災害時の様々な場合を想定している。</p> <p>例えば、避難の際に自動車での移動は、基本的には出来ない。しかし、高齢者の方などがいる場合、徒歩での避難だと遅く、少し離れた場所でも、自動車で移動をせざるを得ない場合も考えられる。そのため、そのような場合には、一時退避場所となりうるため、提供に際して好意をいただいた場合は、話し合いをして協定を結ぶ場合もある。</p> <p>北側については、西部には川沿いのところもあるので、万が一のことも考えて退避場所の指定を進めていく。退避場所の指定については、沿岸部、川沿いを中心に今後も精力的に進めていく。</p>	

意 見	0519-2
<p>① 地図の色について、凡例を県とは違うものを使用したことだが、標高の色使いについて</p>	

は、完全に間違っていると思う。どちらが高いのか、低いのか、順番が解らない。白とグレー、茶色とサーモンピンクというように、違いが分かりにくいので、絶対改善してほしい。浸水深の色についても、どちらが深いのか解らない。色を変えたことについては、皆さんためだと思うので、真剣に検討してほしい。

- ② 浸水深の意味について、14ページに説明があるが解りにくい。津波の高さとは違うということだが、だとすれば違う言葉を使わなければ誤解を与える。13ページのイラストは、普通の波だと完全に誤解を与える。これを子供が見たら普通の波だと思うので、津波だと解らせるためだとしたらこの図は、完全に間違っていると思う。
- ③ マップに全ての情報の書き込みが、できるようにした方がよい。
- ④ 一時退避場所が建物の階数と住所のみだが、収容できる人数が解らないと困るのではないか。その場所にどのくらいの人が集まるか解らないと、行ってみたら一杯で入れないという場合が起こりうると思うので、少し工夫が必要だと思う。
- ⑤ Web上でPDFファイルを公開すると思うが、その方法も工夫してほしい。

回答	
ご意見として頂戴いたします	

意 見	0519-3 (1)
市の防災に対する考え方と説明をいつ、どこで開催してもらえるのか示してほしい。藤沢、平塚の両市は、市民のためにいろいろとやっているが、茅ヶ崎市は何もしていない。市民のために何をどのようにしようとしているのか聞きたい。	
回答	
防災に特化したものではないが、市民集会を市内12の地区で開いており、防災、福祉、教育などについて、説明、質問に対する回答をさせていただいている。 市民への防災に対する情報提供としては、防災説明会、講習会、講師を招いての講座、防災訓練などで市民の方に参加していただくという形で、情報を伝えているが、まだまだ不十分な面があるので、今後もより一層取り組んでいく。	

意 見	0519-4
このマップだけを家庭に配布すると、津波のことだけなので、地震の揺れに対する対策も必要であるという情報発信をしないとまずいのではないか。地震対策の中で従来では、揺れへの対策であるとか、耐震補強であるとかだったが、合わせて津波対策についても過去に例をとるとこのようなことが起こり得るということで備えておくべきだというような情報発信をしない限り、理解を得ることはできないのではないか。これだけだと地震イコール津波ということで変に受け取られてしまうのではないか。地震対策の一環として津波のことも忘れないようにといった形での情報発信をお願いしたい。	
回答	
ご意見として頂戴いたします。	

意 見	0519-5
避難所として、小学校、中学校が指定されているが、門扉に全て鍵がかかっている。健常者ならともかく、身障者、お年寄りはどのように学校に入ったらよいのか。行政側の姿勢を伺いたい。	
回答	
<p>避難所打合せ会として先週より各学校を回っており、その中で鍵の問題など地域の方を交えて話し合いの場を設けている。これは、毎年行っており、今年も実施しているところである。茅ヶ崎市には、市内の小中学校 32 校の各学校に配備職員として任命された職員がおり、近隣に住所をもつた者があたっている。時間帯にもよるが、学校が開いていない場合は、先ずは配備職員、あるいは学校にもよるが、地域の方が鍵を持っている場合は、その方が駆け付ける。しかし、配備職員など鍵を持った人が被災する可能性もあるので、様々な状況に対応できるように準備を進めているところである。学校毎に対応にばらつきがないように進めていく方向である。</p>	

意 見	0519-6 (1)
一時退避場所へ事前のコンタクトが可能なのかどうか。	
回答	
避難時に開いているのか。何人収容できるのか。事前にマンションの管理組合とコンタクトをとってもよいのか。	
意 見	0519-6 (2)
協定を締結したマンションとのコンタクトについては、協定上は避難が必要なときにお願いすることとなっている。非常時に協力をお願いすることになっており、通常時はマンション住民のプライバシーも考慮してほしい。	
回答	
自治会、マンション等関係するので、ご提案として頂戴いたします。	
意 見	0519-6 (3)
ハザードマップとハンドブックを見比べて、例えば、ハンドブック 14 ページでは、中海岸の最大の津波到達高が 8m となっている。一方はハザードマップの方では、色塗りで浸水深さが 2m～5m となっているので、中海岸の標高の高さは 3m 程度と考えてよいのか。また以前、市が開いた津波の講習会で津波の遡上高さというものがあったが、それは浸水深と一致するものなのか。	
回答	
満潮時からの津波の到達高から、標高分を引いた値を浸水深としてマップに表示している。遡上高さは、このマップには表示していない。遡上高さというのは、地盤のどこの高さまで津波が来たかということ。浸水深のエンドの黄色い表示の部分の標高が遡上高さとなる。	

意 見	0519-7 (1)
ハザードマップの色分けが非常に解りにくい。	
ハザードマップには、住んでいる条件が異なるので、住民の皆さんに情報を受け加えてそれれに完成させることは、当然のこと。	
回答	
色分けについては、正案を作成するにあたって方向性を定めて作成していく。	
意 見	0519-7 (2)
ハザードマップ 6 ページの避難所は、地震、津波を想定すれば、避難所として守られるのか心配である。標高が判らないからこのような質問なのだが、単純に見ても鉄砲通りから南の部分は、海に近く、海岸沿いの学校には屋間なら生徒達があり、生徒たちは、どこへどうなるのか。安全は確保されているのか。少なくとも市立小中学校といった公の建物については、どうなっているのか。	
回答	
津波によって、建物の中にいる人達は守られるのかということでは、小中学校を含め、市では、基本的に RC (鉄筋コンクリート)、SRC (鉄骨鉄筋コンクリート) の 3 階以上の建物を避難所として指定している。	
学校については、建物については耐震性もあり、安全性は確保している。津波の想定に対しては、国道 134 号線を超えたあたりでは、例えば汐見台では浸水深 2m ということが予想されている。3 階以上に逃げれば、安全を確保するうえでは有効と考えている。データでは、津波での浸水深 4m では、RC 構造の建物には影響がなかったとの結果がでている。16m を超える津波についてだと、RC 構造であっても破壊されることもありうるとの結果がでている。そのため、予測の範囲の中では安全に対して有効と考えている。	

意 見	0519-8 (1)
ハンドブック 14 ページの右下の図の数字の見方について。	
この図では、どこからの数字を標高というのか。	
回答	
標高とは、陸上の高さを、日本全国一つの基準からの高さであらわしたもの。TP (東京湾中等潮位) = 0 として、地盤の高さがそこからどのくらいかということを示している。	
意 見	0519-8 (2)
3 ページの大津波警報と津波警報との違いは、標高の高さとの関係はあるのか。	
回答	
気象庁の基準では、基準値としておおむね 50 cm で津波注意報、1m 以上で津波警報、3m 以上で大津波警報となる。	
一昨日 (5月 17 日) 気象庁より新たな伝達方法が示されており、表記の方も若干変わることになると思う。警報については、J-ALERT により、防災対策課からではなく、総務省から送られそのまま放送として流れる。そのため、警報に対するフォローアップとして「今の警報は…でした」という形で放送を流すことになると思う。津波注意報については、自動的には流れず、市の手動で放送を流す。	

意 見	0519-8 (3)
大津波警報の場合、満潮時から3m以上と考えてよいのか？	
回答	
気象庁は全国的、広域的に津波を予想しているため、潮位とは関係なく、基準値以上の津波が来るとした場合には、警報を出す。	

意 見	0519-9 (1)
汐見台小学校は、ハザードマップでは青色の区分のところに入っている。汐見台地下道の横には汐見台小学校があり、小学校の標高は3.8m、湘南道路の標高は4.8mである。2~4mの湘南道路より低い津波であっても、この地下道を通って海水が上がってき、小学校に水がくると思われる。そのため、この地下道は必要なのか。また、課長は1回目の説明会の後、現地に行ってこの地下道をみたことがあるのか。	
回答	
この地下道については、我々も心配しており、県に対して浸水予測図を作る際に、この地下道を津波が通ったことを考慮した計算をしてほしいと要望しており、その結果を今回のハザードマップには反映をしてある。	
意 見	0519-9 (2)
茅ヶ崎市は、県に対して申し入れはしていない。申し入れをしているなら書面で示してほしい。	
回答	
昨年11月に県が予測図を作成しており、この地下道についても計算がなされている。地下道の必要性については海岸沿いに住む人たちの避難路としての機能もあるため、国道134号線を管理している県の部局と市とで話し合う窓口を持つことで話を進めている。	
現地の地下道については、見ている。また汐見台小学校については、来週前半に小学校のほうに伺うことになっている。	

意 見	0519-10 (1)
東海岸小学校の件で3月9日に防災課へ質問書を持って行った。その時点で平塚市は、津波のシミュレーションのビデオを作成しており、10mの津波が襲って来た場合、国道1号線まで到達するということが判っていると想定して、国道134号線と1号線の間にある全ての小中学校の屋上を強化して、屋上に避難できるように柵を設ける工事を昨年1年間で実施し終わったと聞いている。3月9日に質問書を持って行った際にも茅ヶ崎市には5mの津波しかこないのでそのようなものは必要ないと回答だった。	
回答	
学校の屋上については、市内の小中学校は屋上に上がるところ、また屋根となっていて人の重さに耐えられないところもある。RC構造の耐震性を確保した建物で高さがあるものについては安全に対して有効だと考えている。	
意 見	0519-10 (2)
同じ市職でありながら、平塚と茅ヶ崎の間では、なぜこのような発想力、危機感の差が生じるの	

か。具体的に何も進んでいないと感じる。2か月前の質問に対しても何も具体的な回答が得られなかつた。

回答

津波については、最大クラスの津波がきたことを想定として算出している。また、津波の前に起きる地震では、身を守るために日頃から備えて置くことが重要であり、地震による火災にも、行政として、市として素早く対応できるように取り組んでいる。地域の住民へも防災訓練などを通して、防災への対策をお願いしているところである。

【3】平成24年5月21日(月)	
意 見	0521-1(1)
過去の説明では134号は高さ7mあり、津波は4mだから国道134号を越えないと言っていた。ハザードマップの改訂はよいが、過去の説明について反省しているのか。	
回答	東日本大震災が生じたことの反省点も踏まえて、神奈川県でも最大クラスの津波の想定を行い、浸水予測図を作り、その結果茅ヶ崎市でも、場所によっては国道134号を超える予測となつた。ご理解いただきたい。
意 見 0521-1(2)	
高潮の時に地震・津波が起こったらどうするのか。複合災害の想定も必要。	
回答	高い水位の状況で津波が来たときの計算にはなつてゐる。ただし台風との複合の場合は考慮されていないので、今後考えていく必要がある。
意 見	0521-1(3)
相模トラフの研究が不十分。相模トラフで何が起こるのか、予測は難しいが、現在の予測以上の場合もありうると考えられる。平塚並みに10mという予測は今回しないのか。	
回答	相模トラフの話が出ているが、実態はない。中央防災会議でも別途、五連動地震で計算したが、神奈川県の試算より値が低かった。現況では根拠がつくれない。例えば平塚市が10mとの話があるが、10mの津波が来たらどうなるかということを示しただけ。重要なのは、現状で示されたデータに対して、周辺の地形によって状況が変わることである。それを自分で調べ、自分のリスクを考えることが大切。自助、自分自身を助ける準備をしてもらいたい。ここまで逃げればここまで安全ということを示しているわけではない。自分たちで考え、どのように逃げるかを整理していただきたい。

意 見	0521-2(1)
8mの津波が相模川を遡上した場合、どの地点でどのくらいの高さになるかは、どこかで見ることができるのか。	
回答	8mという値は津波到達高であり、満潮位に8mになるという意味である。相模川の前面には砂州があり、そこで水位が変わる。満潮位よりも上に地形があってその上を流れてくるため、浸水深としてはそれほど高くならない結果となる。当然、海底の地形を踏まえて浸水深の計算を行う。
意 見 0521-2(2)	
洪水のハザードマップでは、柳島周辺は浸水域に入っている。洪水と津波とは流れの性質が違うから別に考えるべきなのか。洪水ハザードマップの改訂以降、堤防が強化されたので、ハザードマップと結び付けて考えるのはおかしいか。	
回答	津波は引くが洪水は上流から流れっぱなしなので現象としては全く違う。一緒に重ね合わせて考

えることは少し難しい。一概には言えない。

意 見	0521-3 (1)
東日本大震災ではライフライン、ガス、水道、電気にかなり被害が出たが、実際そのような状況になった場合どうするのか。	
回答	
今回、津波ハザードマップの説明会ということでライフラインについての資料、説明はしなかつた。ライフラインについてはそれぞれの関係機関と協定を結び、非常時には対応する。連絡体制の整備、定期的な訓練の実施で対応している。実際の対応についてはケースにより異なるが、情報を共有しながら対応する。	
意 見	0521-3 (2)
消防団は、どんな活躍をして助けてくれるのか。	
回答	
災害発生時には茅ヶ崎市災害対策本部が設置される。昨年3月11日以降、機能しにくかった部分を更に改良し新しい体制を作った。消防、消防団とも、実際の状況の中で、協力、連携していく。	
意 見	0521-4 (1)
P14③中海岸の「繰り返し到達し、第2波以降が大きくなることがあります」とある。今回の津波の予測も、第2波以降の結果も考慮してハザードマップに盛り込むべきではないか。そうすると浸水深の表示も変わってくるのではないか。	
回答	
時系列の波の中で最大の値によりハザードマップの浸水深を示している。	
意 見	0521-4 (2)
安心してはいけないということを、もうちょっと示すためにピンクの色を使っているのか。	
回答	
バッファーゾーンとして示したいという意図がある。ただし計算結果は結果として示したい。浸水範囲は正確に伝えなければならない。デフォルメしてしまうと分からなくなってしまうし、独り歩きしてしまう。	
意 見	0521-4 (3)
色分けだが、標高が0~4mの表示がピンクで、あとが白から茶色となり非常に見難い。高さの表示だから、濃い色に変わっていくのならわかるのだが、そこに白やピンクが入っていて分かりにくい。具体的に言うと、例えば0~4mは薄いブルー又は白、それから薄茶、濃い茶などで高さ表示してはどうか。	
回答	
色塗りについては、検討した結果、下地の文字が読めることが一番重要なので、下地を白にしたいという考え方で示した。また視聴覚障害の方にも意見をいただいた。もし良いアイディアがあつたらアンケートに書いていただきたい。	
意 見	0521-4 (4)

津波一時退避場所の標識については、全て配布され、貼られたのか。	
回答	
現在、貼る場所等を検討しながら進めている。まだ貼られていないところもあるが、先方様の都合に合わせながら対応している。標識プレートについては、本日後方に展示してあるので、参考にしていただきたい。	
意見	0521-4 (5)
警報が鳴る時の放送文の内容は具体的に決まったのか。緊急性を訴える放送文を、茅ヶ崎市としてどのような形にしているのか。高台に逃げて下さいなどという形ではだめだと思う。	
回答	
直接総務省からくるものについては、文言が決まっている。それ以外の市からの文言については、ただいま作成中である。緊急性のあるものについては、緊急性のあるような形としていきたいと思っている。提案等があったらアンケート用紙に記入お願いしたい。	
意見	0521-4 (6)
停電の場合は放送できるのか。	
回答	
停電の場合は、バックアップ電源があり、1時間毎に5分使って、24時間仕様可能になっている。今後ソーラーパネル等についても検討中。	

意見	0521-5 (1)
津波と大津波の違いが分からない。模擬放送についてはぜひ続けていただきたい。	
回答	
大津波警報、津波警報、津波注意報について確認すると、気象庁では0.5mレベルが注意報、1mレベルが津波警報、3m以上が大津波警報。気象庁の発表では、今後若干変更される。なお注意報だけは市の方で出す。それ以外については気象庁の情報を流す。	
意見	0521-5 (2)
柴山先生の話では、市には、海岸線にくる津波の大きさを検討して出したとのことであるが、過去、鎌倉の大仏が動いている。また小田原城の石垣が壊れたが、このクラスの地震は採用しているのか。	
回答	
鎌倉と茅ヶ崎の違いは、鎌倉は地形的に波が集中する形になっている。鎌倉と茅ヶ崎では地形が大きく異なる。また鎌倉の14mは溯上高で、標高の14mまで這一あがったということである。一方、茅ヶ崎の計算結果は6~7mだが、地形の違いによる。またそのクラスの地震については加味されている。	
意見	0521-5 (3)
ちょうど雄三通りというところで、海底の地形が変化した。海底の平面地形が変化したため、波が高くなるのではないか。この点について考慮しているのか。	
回答	
海底地形は重要。津波については集中効果、浅水効果、レンズ効果、共鳴効果の4つの効果があ	

る。津波学者、地震学者などが関わっているので海底地形は当然反映されていると考えている。茅ヶ崎は100mの水深までが2km、石巻のある仙台湾では100mの水深までが20~40kmで地形が全然違う。また鳥帽子岩の東側については遠浅が続いているので、浅水効果、レンズ効果等により方向がかわり、茅ヶ崎海岸ですこし浸水しているのはその影響と考えられる。結果としては新しい海底地形が反映されている。

意 見	0521-6 (1)
よくできていると思う。後はレイアウトの問題。情報量が多すぎてみなさん混乱している。電信柱に標高表示をしてほしい。	
回答	
現在検討中。東電柱以外も考えている。	
意 見	0521-6 (2)
新湘南バイパスは標高が高いので、一時避難所として、市からかけあってくれないか。	
回答	
全国的な形で交渉中。	

意 見	0521-7 (1)
茅ヶ崎市では3F以上の建物に避難することになっているが、東海岸小学校、第一中学校は、周囲から1m以上下がったところに校舎が立っている。その状況では3階建てには相当しないのではないか。それから両校舎とも屋上には上がれないことになっている。したがってこれらの校舎は避難所としては相当しないのではないか。	
回答	
避難所として十分機能すると考えている。一時退避場所と避難所では意味が違うので、分けて考えれば、避難所としては機能すると考えられる。また一時退避場所としても、かなり有効と考えている。東海岸小学校での浸水予測では最大1.2mになる。これは地面の高さから1.2mの意味である。校舎については共に耐震補強を備えたSRC構造で、建物の安定性は確保している。浸水深1~4mであればRC, SRCで影響を受けなかった結果が出ている。16mを超えた場合は非常に大きい影響を受けた。予測であるが、建物の安全性は機能を有する。また高さについては、1.2mの場合は、校舎の2階でも大丈夫だが、3階なら一時的退避場所として機能を有すると考えている。	

【4】平成24年5月27日(日)	
意 見	0527-1(1)
日本海中部地震の時は波高50cmということであったが、到達地点で1.5mの高さの岩の上にいた子供が流された。奥尻島では、気象庁は5mと発表したが、島の中の15mの高さまで流された。茅ヶ崎でもわからない。ハザードマップの色をもう少し広く、注意喚起の意味で着色してほしい。県が指示したものより、浸水範囲は広くなるかもしれない。関東大震災では、十間坂のJRのカーブしているところまで水が上がった。その付近まで避難した。	
回答	
神奈川県作成の浸水予測を基に、データを図に示している。さらに、標高の低いところについて0~4mをピンク、4~8mを白で示している。11月の県の素案に対して、茅ヶ崎市からは、川での遡上をもっと細かく計算するよう申し入れ、河川堤防の中まで浸水予測がなされている。参考までに、茅ヶ崎市ブックレット14巻「関東大震災 市民の記憶」が出版されたので参考にしてほしい。	
意 見	0527-2(1)
ピンクの標高のところが同じに見える(※その後、照明を付けたら見えた)。緑の中にちょっと濃いみどりがある。なんで色が違うのかその辺を教えてほしい。	
回答	
ブルー(緑の濃いところ)のところがちょこちょこ入っているところについては、くぼ地で地盤が低いところ。	
意 見	0527-2(2)
浸水深は、国道134号を考慮して書かれているものなのか。	
回答	
国道134号については、反映されている。地形は全部反映されている。	
意 見	0527-2(3)
地震の津波については、サイレンが2種類とのこと。地震ではなく海底の陥没でも津波がおこることのことだが、そのような場合も警報は鳴るのか。	
回答	
ちなみに気象庁の出す津波注意報は0.5m、津波警報は1m、3m以上が大津波警報。気象庁ではまず大津波を出し、大丈夫となると、警報を下げていく方向で出す。津波警報、大津波警報については、気象庁が発表すれば自動的に出る設定になっている。なおかつ、市でもフォローアップの放送を流す。	
意 見	0527-2(4)
退避場所の次の更新は6月1日か。	
回答	
6月1日時点でのリストを用いて配布する。	
意 見	0527-2(5)
ハザードマップが全住民に配られた後、市は、津波に対する説明会の実施を考えているか。	
回答	

ハザードマップを7月に配布する。それで終わりというわけではない。家庭・地域で考えて、備えてほしい。まず津波に対しては逃げる。市の対策としては、一時退避場所や必要な施設の整備を行う。また海岸地域の全ての住民を対象にし、ハザードマップを使った津波避難訓練を11月に実施する予定である。

意 見	0527-3
相模川の左岸がずいぶん浸水しているが、茅ヶ崎側は、堤防の整備が止まっているが、そのためか。	
回答	
現在の左岸は、茅ヶ崎側の56%で高い堤防が出来ている。国道1号線より北の部分では平成28年度まで整備を終える予定。国道1号から南側部分については現在、国への要望中。5月18日にもこのハザードマップを持って要望に行った。民地が多く買収が難しい。	

意 見	0527-4
よくできたハザードマップだが、5m前後の津波とは安易ではないか。大きさにすればよいというものではないが。自治会として津波対策を協議し、高層マンションを開放してもらい緊急避難することとした。この結果で安心した。しかし5mではなく、もう少し8~15m以上のシミュレーションをして、被害想定するという構想はあるか。	
回答	
10m、15mのシミュレーションを市で行うことは、今考えていない。平塚で10mが起こったときのシミュレーションが行われているが、今回、茅ヶ崎の地域や地盤を考慮した結果がこのように出ているので、その結果を出させていただいている。津波が高くなる4つの効果は、集中効果、浅水効果、レンズ効果、共鳴効果。鳥帽子岩の先がガケ地になっている。100mより浅い場所が茅ヶ崎では2kmからだが、石巻では100mより浅い場所が40kmほどあり、だいぶ違う。まずは逃げられる環境をつくるためにハザードマップを活用してほしい。	

意 見	0527-5
ここで想定されている、過去の地震の最大マグニチュードは8.4~8.5だったと思う。一方3.11の地震では、マグニチュードは9だった。茅ヶ崎海岸でもマグニチュード9を想定する必要はないのか。マグニチュード9レベルの時は、被害はどれくらい違うのか。	
回答	
今回の計算結果は、マグニチュード7.9~8.5の地震を使ったものであり、マグニチュード9クラスは計算に使っていない。マグニチュードが大きいから、大きな津波が生じるわけではない。あくまでも想定される津波の中で最大のものを示している。中央防災会議で5連動の予測をしているが、県の予測より低かった。よって県の予測を使っている。	

意 見	0527-6
ある学者によると、津波高の約1.5倍が到達高さと言っていた。つまり津波高さが8mだと12m	

の標高まで到達するということになる。また津波の速さは、地上では自動車程度(30~60km/h)なので、30km/hとすれば500m/minということになる。遡上が3分すると、海岸から1,500mの地点まで到達する。1回目の資料入手後、十数名に聞いてみたが、「この到達範囲で済むのか」という話がほとんどであった。市として、浸水範囲外に一時避難所を設けるということは、浸水範囲以外にも津波が来るという想定だと思う。現状のハザードマップの形を急に変えることはできないと思うが、一つの案として、例えば標高12mに点線を入れるなどして、ここまででの地域はご注意くださいとの注意喚起をすれば、県の浸水域とも矛盾しないと考えられる。そのような方法はどうか。

市会議員の中で、茅ヶ崎には津波が来ないという間違った講演している人がいるが、きちんと周知してほしい。

11月に訓練をする時、普段いない人は、避難ビルでどう動いていいかわからず、とまどう人がたくさん出ると思う。自主的な訓練をする人を対象に、市で広報をすることが可能か。

回答	
	市議会議員への周知については、ご意見として伺う。
	ハザードマップの浸水域は、県の予測の最大のものを使い、浸水域としている。また注意喚起の意味で、標高の色分けをしている。今回提案していただいた表示方法については、参考ということで、あづからせてほしい。
	訓練についてはどのような形がよいか現在検討している。これについては今後広報などで広く知らせる。

意 見	0527-7(1)
	素案とは何なのか。これから直しますという前提があるからなのか。
回答	
	素案というのは、みなさまから、見やすさ、使いやすさについて御意見を受け、可能なところは反映させるため素案とした。ただし(浸水予測区域)データ等については変更することはできない。
意 見	0527-7(2)
	前回のハザードマップとの違いはどこか。どのポイントを見直したため、このようになったという説明が欲しい。
回答	
	前回のハザードマップとの大きな違いは、東日本大震災をうけて、津波が国道134号を超える想定がされたことである。なお前回は住民の方から意見を伺って作ったので、それも生かしながら今回のハザードマップを作成した。また前回は南側だけの地図だったが、今回は市全域を対象とした。さらに今回は、ハンドブックとマップに分けた。
意 見	0527-7(3)
	茅ヶ崎市内には2箇所の地下道がある。藤沢市内の地下道と作り方が全く違う。国道134号になぜこのように海に直角の地下道があるのか。津波が無いとの想定で作ったものなのか。
回答	
	神奈川県の国道134号を管理しているところに対し、茅ヶ崎市との相談窓口を作つてもらうよう話をしている。窓口が出来次第、こちらの考え方を話に行く予定である。

意 見	0527-8
ハザードマップを作ったとき、地形(海底、茅ヶ崎市内)を考慮したのか。建造物を考慮したのか。	
回答	
地形については考慮(国土地理院の地形図、海図を使用)している。建物については、建物の1つ1つを評価できるほどの計算技術はまだない。建物があることで津波の進行が遅れることについては、陸域に上がってからは、粘性として考慮している。	

意 見	0527-9 (1)
自主防災会で避難輸送を担当している。ハザードマップを見た印象では、私たちは地震に対して配慮する必要はないような気がした。茅ヶ崎市民の90%が関係ないといったようなハザードマップにみえる。今後、大地震で津波警報、大津波警報が出て波の高さが表示された場合、茅ヶ崎では、浸水深は何mになるのか。警報からどのように読み取れるのか。	
回答	
現状で、浸水深と津波警報との関係は、直接繋がっているものではない。気象庁の大津波警報は3m以上と言われているが、これは浸水深ではなく津波到達高さ。実際には、浸水深と津波到達高さの関係は明確ではない。今回は予測に基づいたものである。津波警報・大津波警報が出た時には、とにかく逃げる。その時に浸水深がいくつになるかは不明な部分がある。だから浸水深を目安に逃げるということではない。	
意 見	0527-9 (2)
それでは、このハザードマップはどう使えばよいのか。	
回答	
ハザードマップについては、あくまでも計算上最大クラスの津波を想定した浸水予測域を示している。この結果から皆さんに想定してもらい、どうすればよいのか検討し、対応いただき、備えていただぐのにハザードマップを活用していただく。市としても、ハザードマップを配布して終わりということではなく、引き続き地域の皆様と連携ながら、訓練等で活用していく。	